

マダラ

陸奥湾海域

Gadus macrocephalus

地方名

たら、ぽんたら、ぼうだら



生態

- ①寿命：陸奥湾産卵群は8年以上（太平洋8年、日本海10年）
- ②成熟：オス3歳以上、メス4歳以上
- ③産卵期：陸奥湾で12月下旬～翌1月中旬
- ④産卵場：陸奥湾、岩崎沖、階上沖
- ⑤分布：黄海からカリフォルニア沖に至る北太平洋大陸棚と大陸斜面。日本では島根県以北の日本海及び茨城県以北の太平洋から北海道沿岸。
- ⑥生態：直径1mm前後の弱粘着性の沈性卵を200万粒～500万粒産卵。水温2℃～4℃、水深200m～500mの海底付近に生息。主な餌生物は甲殻類や魚類、イカ類、貝類など。

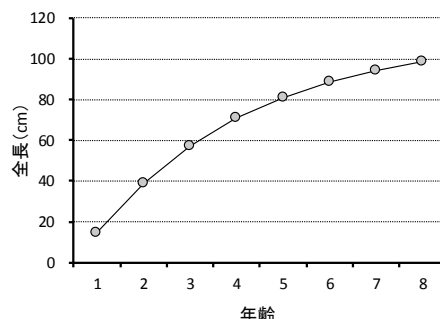


図 青森県におけるマダラの成長

主な漁業

陸奥湾では産卵期である12月から2月にかけて主に底建網、定置網で漁獲される。陸奥湾以外の海域では底びき網、底建網、さし網、釣りなどで漁獲される。

陸奥湾では3歳から漁獲される。

資源の動向と水準

陸奥湾における漁獲量は、昭和50年以降増加し、昭和61年に2,035トンとなったが、平成5年以降低迷した。平成21年以降増加に転じ、平成28年に1,000トンを超え、令和元年は1,939トンの豊漁となった。漁獲物の年齢は、4歳魚～6歳魚が主体で、平成28年漁期以降は7歳以上の高齢魚も漁獲されていた。

令和元年の漁獲動向は、漁獲量の直近5年間の傾きから増加と判断した。令和元年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を3等分し、上から高位、中位、低位とすると、高位であった。

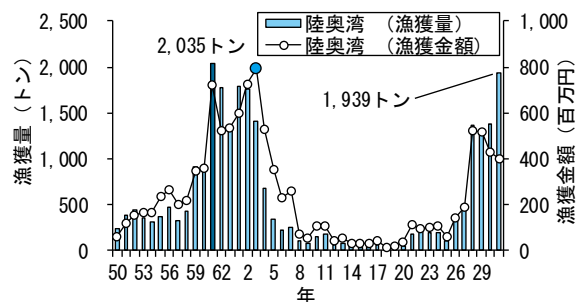


図 青森県陸奥湾におけるマダラの漁獲量及び漁獲金額の推移

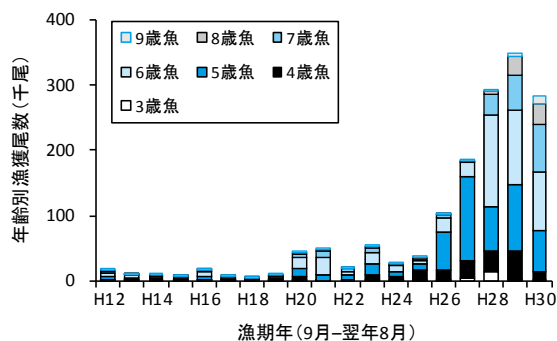


図 青森県陸奥湾におけるマダラの漁期年別年齢別漁獲尾数

漁獲の動向



増加

漁獲の水準

高位

資源を上手に利用するために

○マダラ陸奥湾産卵群資源回復計画（平成19年3月水産庁）

- ・陸奥湾地区の底建網漁業及び小型定置漁業による、放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流などについて定めた。

☆上記の取組を継続することが必要である。

トピックス

- ・陸奥湾におけるマダラ稚魚の発生状況をモニタリングするため、（地独）青森県産業技術センター水産総合研究所では、平成29年から試験船青鵬丸による陸奥湾内および湾口部のオッタートロール調査を行っている。令和元年の調査では高い密度の分布は確認されなかった。